

前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画(抜粋)

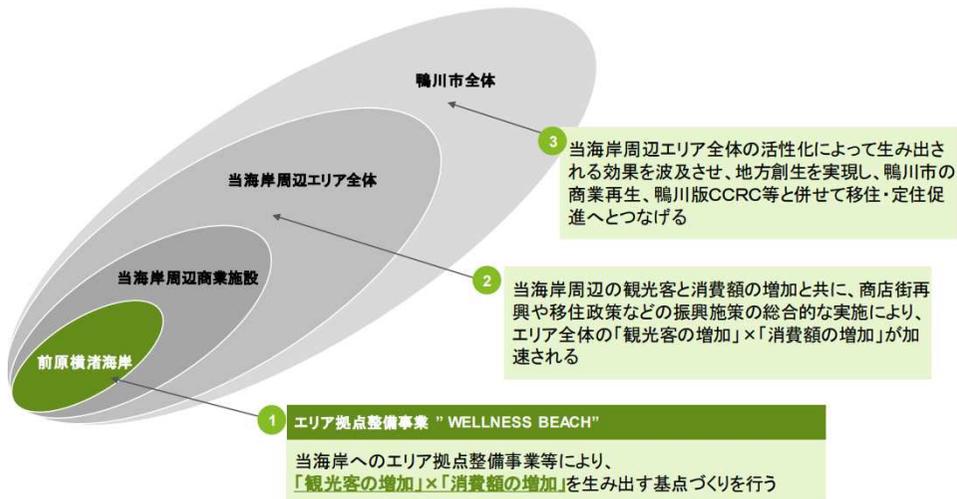
既存計画の整理

2：前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画

①計画概要

統一的なエリア活性化施策の推進により「観光客の増加」×「消費額の増加」を生み出し、鴨川市全体を活性化させる基点となることが、当海岸の目指すべき姿である

当海岸周辺が目指すべき姿



②実施計画

エリア拠点創出構想の実現に向け優先順位を定め、試行事業の実施・検証も含めてスモールスタートし、段階的に事業を拡大・定着化させる

実行に向けたロードマップ

- 5年目の魅力体験広場およびエリアマネジメントセンターの運営開始のマイルストーンに向けて計画・整備を進める
- 10年目を迎えるまでに、ターゲット層の拡大に向けて外国人観光客の取り込み計画作成を進める

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
◆マイルストーン		◆試行事業の運営開始	◆参入事業者の決定	◆魅力体験広場の開設	◆エリアマネジメントセンター開設				◆外国人観光客の取込	
海辺の魅力再活性化計画の策定										
エリア拠点整備計画の策定等										
■監視小屋の設置										
■拠点整備方針の決定										
■エリアマネジメント体制構築										
■試行事業の実施・検証										
■魅力体験広場事業計画の策定										
■空き家情報の収集・整理										
魅力体験広場・エリアマネジメント設置等										
■チャレンジショップの開設										
■拠点参入民間事業者の選定										
■魅力体験広場の整備・開設準備										
■エリアマネジメントセンター設計・建設										
エリア拠点の運営										
■ターゲット拡大計画の策定・実施										

③総括

良質な日常の提供というコンセプトに基づき統一的な価値提供を実施する

「良質な日常の提供」＝ウエルネスリゾートの実現

■コンセプトに基づく3つの価値提供

- 身体的価値
- 精神的価値
- 社会的価値

【鴨川市観光コンセプトとの整合性】

「心と身体が満たされる癒しのリゾート鴨川」

1. エリア拠点において「良質な日常」の具現化

2. 良質な日常のイメージを周辺エリア全体へと波及させ、「心と身体が満たされる癒しのリゾート鴨川」を実現

既存計画の整理

3：海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業

計画概要

実施計画

既存計画名	策定年度		課題・背景	ゴールの定義	実施すべき施策
地方創生推進交付金事業 海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業	H28			前原海水浴場及び周辺サーフポイント 入込客数11,000人増	
<ソフト事業>					
○前原横渚海岸周辺活用計画の策定及び広報活動の実施	H28		海水浴客の減少、新たな魅力の創出、地域ブランディングの確立	同上	官民による検討組織設置、活用計画策定
○前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会・開催	H29		海水浴客の減少、新たな魅力の創出、地域ブランディングの確立	同上	推進委員会開催運営
①事業推進体制構築・推進委員会支援等委託	H29		専門人材の育成、体制強化	同上	拠点整備方針の具体化、観光施策の企画・広報統一化
②試行的取り組みや各種アンケート結果及び観光施策検証と観光戦略検討委託	H29		市場ニーズ把握、マーケティング機能強化	同上	観光振興計画の総合的検証、観光戦略の明確化
○安全で安心な海水浴場の確保	H29		安心・安全の担保	同上	海岸清掃活動等
○空き店舗等物件情報の収集・整理	H29		商店街の空洞化、後継者の不在	同上	空き店舗等物件調査
○DMO候補法人運営強化	H29		専門人材の育成、体制強化	同上	運営強化人件費、人材育成費、PR費、窓口改修費補助
○前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会設置、開催	H30		専門人材の育成、体制強化	同上	推進委員会開催運営
○マリンスポーツ等を中心とした多様なレクリエーション機会の提供	H30		旅行ニーズの多様化	同上	マリンスポーツ、ビーチアクティビティ体験活動実施他
○安全で安心な海水浴場の確保	H30		安心・安全の担保	同上	海岸清掃活動等
○空き店舗等の情報提供及びチャレンジショップの開設支援	H30		商店街の空洞化、後継者の不在	同上	チャレンジショップ開設支援補助
○民間事業者参入支援業務	H30		地域間競争激化	同上	ロングリスト、ショートリスト、ヒアリング、選定支援
○プロジェクトマネジメント体制強化	H30		専門人材の育成、体制強化	同上	PM体制強化支援委託、宿泊施設・飲食施設勉強会委託
○DMO候補法人運営強化	H30		専門人材の育成、体制強化	同上	運営強化人件費、人材育成費、PR費、窓口業務効率化補助
○民間資金導入体制等構築	H31		地域間競争激化	同上	PPP/PFI導入に係る体制・制度構築委託
○空き店舗等の情報提供及びチャレンジショップの開設支援	H31		商店街の空洞化、後継者の不在	同上	チャレンジショップ開設支援補助
○プロモーション費	H31		PR戦略の転換	同上	特設HP作成、PR動画作成
○外国人観光客獲得に向けた調査事業	H31		インバウンドの拡大、受入れ体制整備	同上	アンケート及び現地調査・分析
○DMO候補法人運営強化	H31		自走化に向けたビジネスモデル構築、持続可能性	同上	運営強化人件費、人材育成費、PR費
○プロジェクトマネジメント体制強化	H31		自走化に向けたビジネスモデル構築、持続可能性	同上	PM体制強化支援委託



既存計画の整理

3：海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業

計画概要

実施計画

既存計画名	策定年度		課題・背景	ゴールの定義	実施すべき施策
地方創生推進交付金事業 海辺の魅力づくりを通じた交流まちづくり推進事業	H28			前原海水浴場及び周辺サーフポイント 入込客数11,000人増	
<ハード事業>					
○海辺における交流拠点空間整備に係る実証実験事業（コンテナハウス実証実験）	H29		海辺の新たな魅力づくりの必要性	同上	コンテナハウス購入設置
○安全で安心な海水浴場の確保	H29		安心・安全の担保	同上	海岸監視施設等の整備
○海辺における交流拠点空間整備					
（仮称）魅力体験広場整備費	H30		海辺の新たな魅力づくりの必要性	同上	フィッシャリーナ後背地整備工事、機械設備一式
○（仮称）エリアマネジメントセンター周辺区域整備	H31		観光客受入れ体制強化、利便性の向上	同上	（仮称）エリアマネジメントセンター周辺整備
○（仮称）エリアマネジメントセンター周辺の飲食・休憩施設整備	H32			同上	

総括

現計画実行
状況検証

課題整理

計画精度
向上

推進組織
機能強化

計画実行

新計画実行
状況検証

H30年度はフィッシャリーナ後背地整備工事（21,591千円）が、またH31年度は（仮称）エリアマネジメントセンター周辺整備費（20,091千円）が予定されているがハード整備の基本的方向性を検討する必要がある。

1: 「良質な日常の提供」実現に向けたロードマップ

〔良質な日常〕を形成する要素（=来訪目的）の整備



ソフト面の整備

- 健康・癒しに直結する「鴨川にしかない」体験観光コンテンツの開発
- 多彩なコンテンツを瞬時に選択・手配できるナビゲーション機能の開発

ハード面の整備

- 体験観光コンテンツのベースキャンプとなる拠点整備
- 来訪者が「遊び・癒し」を即座に体験できる交流拠点整備

〔良質な日常〕を阻害する要素の排除・改善



ハード面の整備

- 中心市街地の賑わいを取り戻す整備・施策
- 徒歩等で安心・便利に回遊できる交通インフラの整備

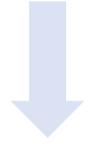
〔良質な日常〕を訴求する機能の整備



ソフト面の整備

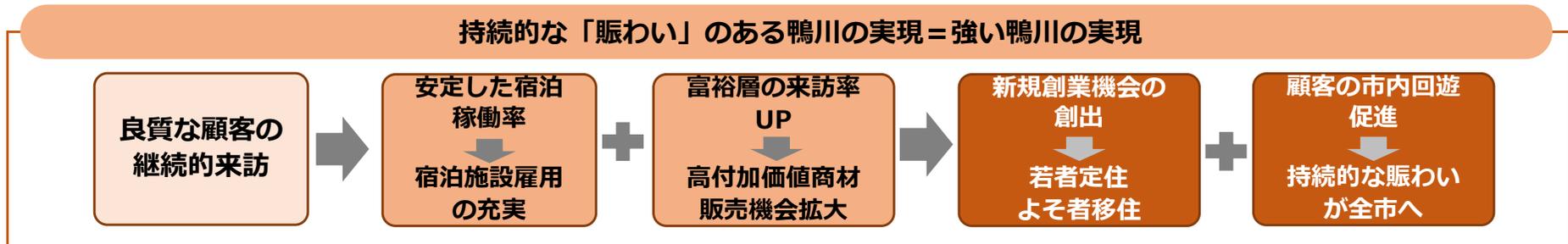
- 各団体・イベントごとに散発している情報発信を統合化（=販促の統合化）
- 顧客属性に最適化された観光コンテンツのパッケージングと訴求
- インバウンド誘客手法の確立

〔良質な日常〕の提供が地域の儲けに直結する仕組みの構築



ソフト面の整備

- 求められる地域産品（土産物）の開発と観光消費額の拡大
- 体験観光事業者・チャレンジショップ事業などを通じた創業支援の充実



2 : 各計画・各事業実施策（案）

既存各計画における重点施策

第2次鴨川市総合計画より

- 新たな交流形成 メディカルツーリズムの形成
- 新たな交流形成 スポーツツーリズムの形成
- 地域食材を生かした健康産業の形成
- 水産・商工・観光の連携 体験観光メニュー開発
- 水産・商工・観光の連携 交流拠点整備と賑わい創り
- 交通アクセスの整備及び公共交通網の充実
- 富の集積と域内循環 ふるさと納税の拡充
- 鴨川観光プラットフォーム（DMO）の機能強化
- 産学官連携による地元定着・担い手形成の促進
- ふるさと教育の推進 ボランティアの参加促進

スポーツを活用した地域の稼ぐ力 応援計画より

- スポーツ産業振興計画の策定
- 専門人材の招聘・育成
- 合宿・大会誘致
- スポーツコミッション組成
- 集客システム構築
- スポーツイベント実施・誘客PR

みんなみの里機能拡充計画より

- 次世代の農業担い手育成
- 6次産業化の支援
- GAP認証指導
- ターミナル機能強化
- 流通機能強化
- 空き家対策

前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画より

- エリアマネジメント拠点整備 マネジメントセンター開発
- エリアマネジメント拠点整備 体験広場開発
- エリアマネジメント拠点整備 チャレンジショップ開発
- エリアマネジメント体制整備
- 海岸エリアへの集客・各エリアへ波及形成
- 海辺の環境整備（フィッシャリーナ周辺）
- 体験観光商材開発・実証
- DMO運営強化
- マリンスポーツ・アクティビティ提供
- 民間事業者参入支援業務
- 民間資金導入体制等構築
- インバウンド強化

2：各計画・各事業実施策（案）

B：インフラ整備（拠点整備）

①海辺周辺の環境整備

海岸を活用したコンテンツの提供やイベント開催を通じて、観光客と地域の魅力が交差する交流拠点機能を構築する。

■アクティビティ受付

海岸を活用したアクティビティ等の企画・提供や、自転車等機材の貸し出しを行う。

■地域産品販売

鴨川周辺の食や工芸品等を気軽に楽しめる場を提供する。

■イベント開催

観光客と地域の人々双方が楽しめるイベントを企画・提供する。

統一的拠点形成を通じ、海岸を活用した体験型観光に関する新規事業者の参入・形成を誘導する。

検討候補地：フィッシャリーナ後背地

- 観光の魅力体験や飲食スペース、イベントスペースを設置する
- BBQ等のアウトドアレジャーが楽しめるスペースを整備する

【土地の特徴】

所有状況	鴨川市および鴨川市漁業協同組合が所有
駅からの距離	1,100m(徒歩14分)
敷地面積	約12,199㎡(約3,690坪)
その他の特徴	現在はイベント会場、臨時駐車場として利用

実証事業（H29年度）

実施：H30年3月24日（土曜）及び25日（日曜）

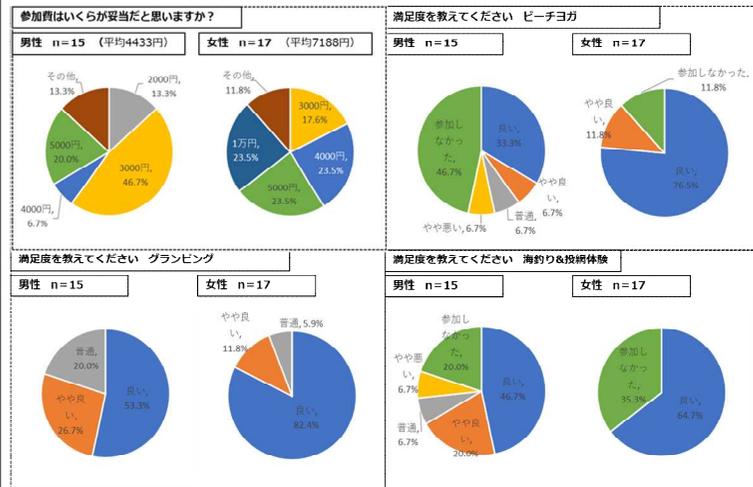
会場：フィッシャリーナ隣接エリア

〔コンテンツ〕

●グランピング・BBQ設備提供

●海釣り・投網体験ワークショップ

ビーチヨガ体験ワークショップ〔総括〕



【配置イメージ】



検討すべき財源：
●推進交付金

実施時期：
H30年

女性客にとって鴨川のロケーションとグランピングの組合せは高ポテンシャル



2：各計画・各事業実施策（案）

B：インフラ整備（拠点整備）

②エリアマネジメントセンター整備

前原海岸エリアに活性化拠点としてエリアマネジメントセンターを整備する。整備に当たっては、観光客に向けた交流拠点機能に加え、市民にとってのコミュニティ機能を加えた施設とし、これを選定基準に当該施設も候補地の検討・選定を進める。

■ 観光案内

観光客に対し、観光情報やイベント情報をワンストップで提供する外国人ヘルプデスクを設置する。

■ 待合・休憩スペース

観光客が気軽に立ち寄り待合・休憩できるスペースを設ける。

■ エリア活性化事務局

エリア活性化に関する各事務局が横断的に集うコワーキングスペースを整備する。

■ 子育てひろば機能

子育て中の方が集い、情報交換できるスペースを設ける。

検討候補地：市民会館周辺

- エリアマネジメントセンターの横に景観を楽しむテラスを設置する
- 地域の子どもが遊ぶことのできる公園を設置する

【土地の特徴】

所有状況	鴨川市および国が所有
駅からの距離	350m(徒歩4分)
敷地面積	約3,357㎡(約1,015坪)
その他の特徴	安房鴨川駅から直線であり、当該地域の拠点となる場所

【配置イメージ】



検討すべき財源：

- 推進交付金インフラ整備

実施時期：

- H31年



2 : 各計画・各事業実施策（案）

C : 官民協働（商工・観光事業者連携）

②チャレンジショップの開発

徒歩による回遊をする観光客にとって、安房鴨川駅から海辺エリアに至る商店街は空き店舗が点在し、古くさみしい印象を与える「観光地とは言えない」雰囲気となっている。空き店舗を住居として継続利用している建物も多く、大規模な再開発は望めない。再利用可能な空き店舗情報を収集し、空き店舗を活用したスモール創業を支援するためのチャレンジショップの開発支援を行う。

実施フロー

空き店舗 情報収集

商工会と連携し、再利用可能な空き店舗情報を収集し、所有者との賃貸に関する交渉窓口を一元化する。

賃貸ルール の設定

所有者から同一条件で貸借し、チャレンジショップ創業希望者が統一仕様で利用可能とするための賃貸統一ルールを策定し、合わせて創業支援メニューを策定する。

物件情報 のデータ化

チャレンジショップ創業希望者が鴨川市ホームページを通じて物件選択ができるよう、物件情報のデータ化を行う。

入居希望者 の募集

チャレンジショップ創業希望者の公募の実施と入居希望者審査の実施。

創業支援

入居者が予定するショップ内容を鴨川観光プラットフォームが運営する各媒体等を通じて誘客支援する。

検討すべき財源：

- 推進交付金市街地賑わい創出

実施時期：

- H30年

周辺公共施設・居住施設の老朽化

利用されていない店舗が点在

- 利用されていない住居・店舗がそのままになっている



写真出所：鴨川市観光課にて撮影

【調査において抽出された意見の一例】

- 新町通り周辺については、ほとんどの商店がシャッターを閉め閑散としている
- 老朽化した小さいアパートや人の住んでいないような建物が多く見られる

寂しさを感じる商店街の雰囲気

- 商店街に寂しい雰囲気が生まれている



写真出所：鴨川市観光課にて撮影

【調査において抽出された意見の一例】

- ゴーストタウン、過疎地域、シャッター通り、高齢者中心の街
- 駅前から続く商店街の多くは古く寂しい印象
- 駅前には申し訳ない程何もなく観光地とは言えない
- 駐車場やアパートも増えてきており、商店街の雰囲気がなくなっている



4 : 年次別ロードマップ

A : 2018年 (H30年度)

主体		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験観光・ヘルスツーリズム 商材開発・実証	実施仕様の検討	→									
	支援機関の選定		→								
	開発ジャンルの選定			→							
	評議委員会 協議・承認			★							
	商材開発				→						
	実施主体の発掘・育成					→					
	試行的販路形成・販売					→					
	受入実証						★★★★				
	評議委員会への検証報告							★			
	持続化・定番化手法の構築								→	→	→
	定番商材の運用をPF移管										→
	魅力体験広場環境整備	候補地の検討	→	→	→						
整備仕様の検討		→	→	→							
支援機関の選定						→					
評議委員会 協議・承認							★				
整備・調達の実施								→	→		
試行的活用施策の立案								→	→		
実施主体の発掘・育成								→	→		
試行的販路形成・販売								→			
受入実証											★★★★
評議委員会への検証報告								★			★
持続化・定番化手法の構築											→
定番商材の運用をPF移管											→
エリアマネジメントセンター整備	整備計画の検討							→	→	→	→
	調達手法の検討								→	→	→
運営団体間連携構築	既存イベント・事業の実施計画精査	→									
	交付金事業との連携案策定		→								
	評議委員会 協議・承認			★							
	連携施策の展開・効果検証				→	→	→	→	→	→	→
	継続運用をPFに移管										→

4：年次別ロードマップ

A：2018年（H30年度）

主体		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
観光PF	ナビゲーション機能強化	実施仕様の検討	→								
		支援機関の選定		→							
		評議委員会 協議・承認			★						
		かもナビ・かも旅改修			→	→					
		運用開始					★				
	販路の強化	かもナビ・かも旅接続販路開発					→	→	→	→	
		開発販路との接続手法協議									→
	統合マーケティング構築	H29年市場調査レポートによる各団体レク			★						
		販促相談窓口の設置・運用開始			★						
		販促結果情報の収集手法検討		→							
		販促結果情報の収集			→	→	→	→	→	→	→
		H30年販促効果検証と評議委員会への報告									

商工連携	チャレンジショップ実証	実施仕様の検討		→							
		支援機関の選定			→						
		物件情報の収集				→					
		評議委員会 協議・承認					★				
		入居者開発・決定					→	→	→		
		入居者開店準備支援								→	
		運用開始									→



参考資料

前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画(抜粋)

● 1-3. 課題認識を裏付ける定量・定性情報の整理(海岸の魅力活用不足)

海水浴以外の観光資源が少ないために、観光シーズンの偏りが見受けられる

海水浴以外の観光資源の不足

海水浴以外の観光資源

- 海水浴以外に釣り・サーフィンといったアクティビティが存在しているが、観光客が気軽に楽しめる環境とは言えない
- 海岸から徒歩圏内の飲食店は少なく、食を楽しむことができない

【海岸周辺のアクティビティ】

- 海岸沿いでジョギング・ランニングを楽しむ人は多いが、ほとんどは地元の方々である
- フィッシャリーナ周辺では釣りを楽しむことができるが、それらをサポートする店舗が周辺に存在しない
- サーフスポットとして有名ではあるが、初心者向けのスクールなどの開催は少なく、気軽に体験できる状態ではない

【海岸周辺の飲食店等】



● : 前原横渚海岸沿いの飲食店
出所: 鴨川市観光課調査情報

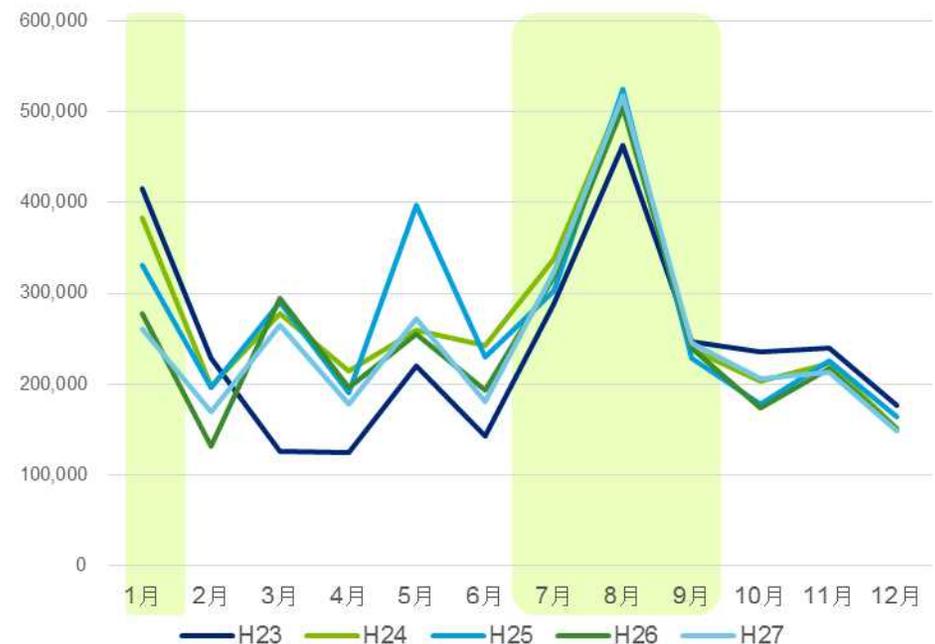
ヒアリングでの意見一例

- 観光客はホテル内で飲食を済ませることが一般的になっている
- 海岸沿いに観光客向けの飲食店が少ない
- 夜間営業している店舗はほとんど存在しない
- 海岸周辺に土産物等を販売する店舗が少ない
- サーファー以外の人が入りづらい雰囲気がある

鴨川市の観光シーズン

- 月別観光入込客数を見ると8月が飛びぬけて多い状況が見受けられる
- 1月の観光客数も一定数いるが、近年は減少傾向にある
- 長期休暇以外の期間の観光客をいかに獲得するかが課題となる

【平成23~27年度 月別観光入込客数】



出所: 鴨川市観光課資料を基に作成

3. 目指すべき姿(拠点事業のコンセプトについて)

「良質な日常の提供」というコンセプトに基づき、統一的な価値提供を実施する

将来像実現のコンセプト

コンセプトの設定

【コンセプト設定の意義】

前原横渚海岸の拠点について、観光客にとって魅力ある価値提供を検討していくためには、統一的で軸となる**コンセプト**が必要である。

魅力ある価値提供を実現することを目的にコンセプトを定めるものとする。

【設定したコンセプト】

「良質な日常の提供」=ウエルネスリゾートの実現(*1)

■ コンセプトに基づく3つの提供価値



身体的価値

鴨川を訪れると、健康が増進する、美容が保たれる、元気になれる



精神的価値

鴨川を訪れると、家族の笑顔が増える、日常をリフレッシュできる



社会的価値

鴨川を訪れると、自分の居場所や人の温かさを感じられる

■ コンセプトに沿わない価値は提供しない

➢ 特定の顧客層だけに支持される排他的な価値

➢ 刺激や目新しさのみを求めるイベント

(例) 夜間の音楽・ダンスイベント、爆買い観光プログラム など

【鴨川市観光コンセプトとの整合性】

拠点のコンセプトは、鴨川市の観光コンセプト「心が満たされる、癒しのリゾート鴨川」と整合させる必要がある。

「良質な日常の提供」によって観光客の心が満たされ、癒しがもたらされることから、拠点コンセプトは観光コンセプトに適っていると考えられる。

*1: ウエルネスとは

身体、精神、社会的な健やかさを維持・発展させるための行動。健やかな状態を、病院等での治療と
いった一時的な機会に委ねるのではなく、生活全体を良質なものによって実現させる考え方。

コンセプトの波及イメージ

1

エリア拠点において「良質な日常」の具現化



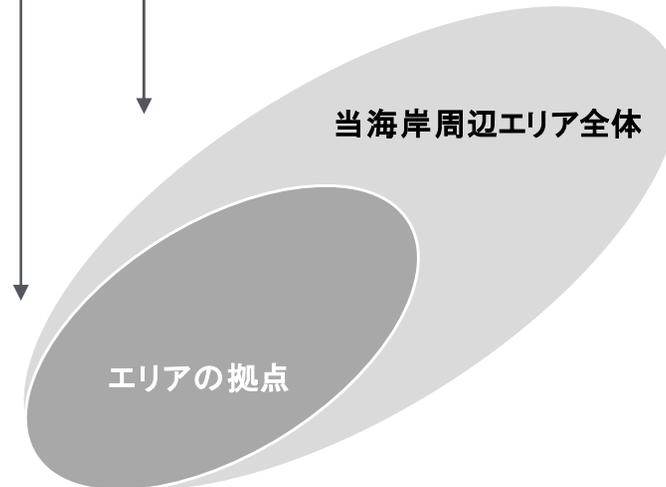
- あたたかい人のつながり
- 自然の中での運動
- 景観の整備されたおしゃれなカフェ
- おいしい野菜・海産物

2

良質な日常のイメージを周辺エリア全体へと波及させ、「心が満たされる、癒しのリゾート鴨川」を実現



- 帰ってきたい第二のふるさと
- 暖かく癒されるまち
- 自分を取り戻せる場所
- 田舎リゾート



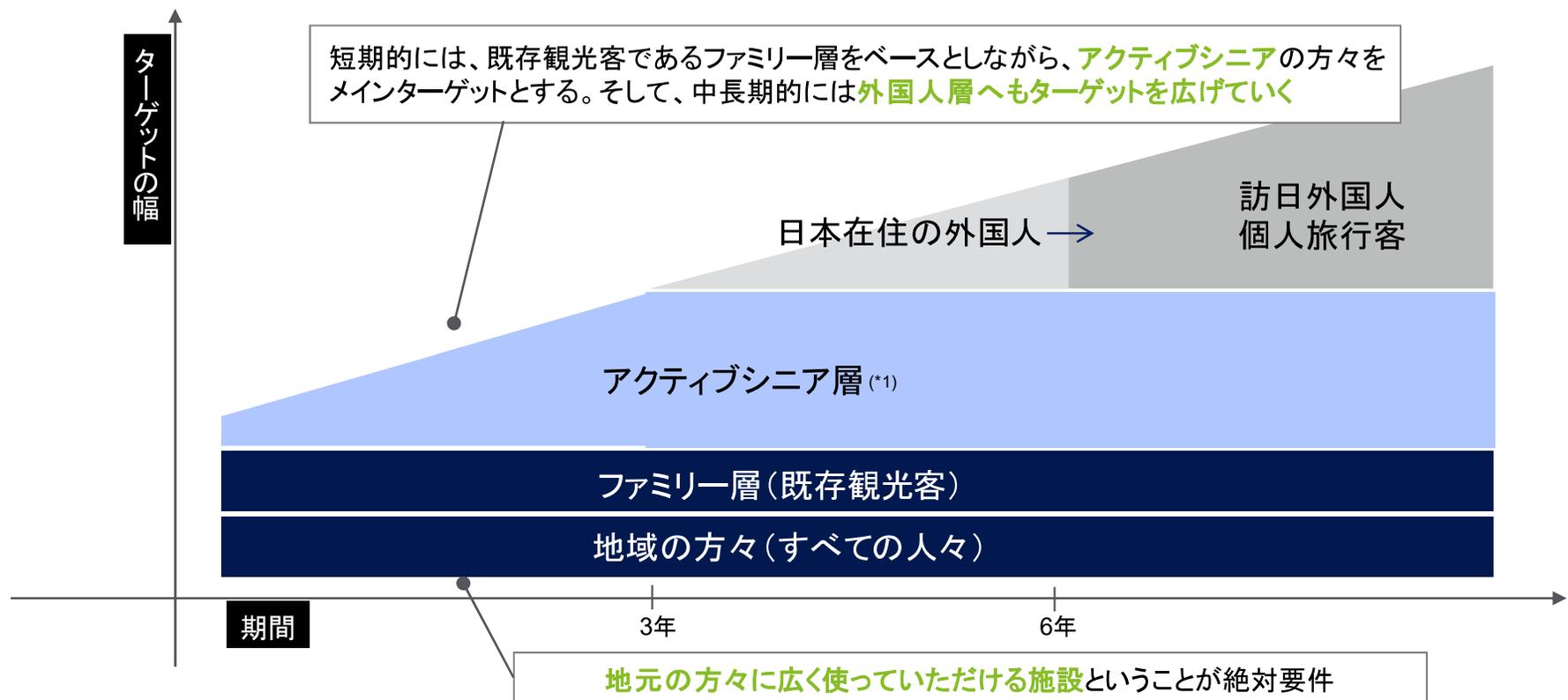
3. 目指すべき姿(メインターゲットについて)

アクティブシニアをメインターゲットに置きながら、中長期的に多様な方々に訪問いただける観光拠点の創出を目指すことが有効である

ターゲットの選定について

ターゲット選定の軸

- 地域の方々に広く開いた拠点とするためにも、他の観光客を排除しないターゲットであること
- 目標としている「観光客の増加」と「消費額の増加」の双方を実現できること
- 他の施策との連携がしやすいなど、町としての方向性に合致すること

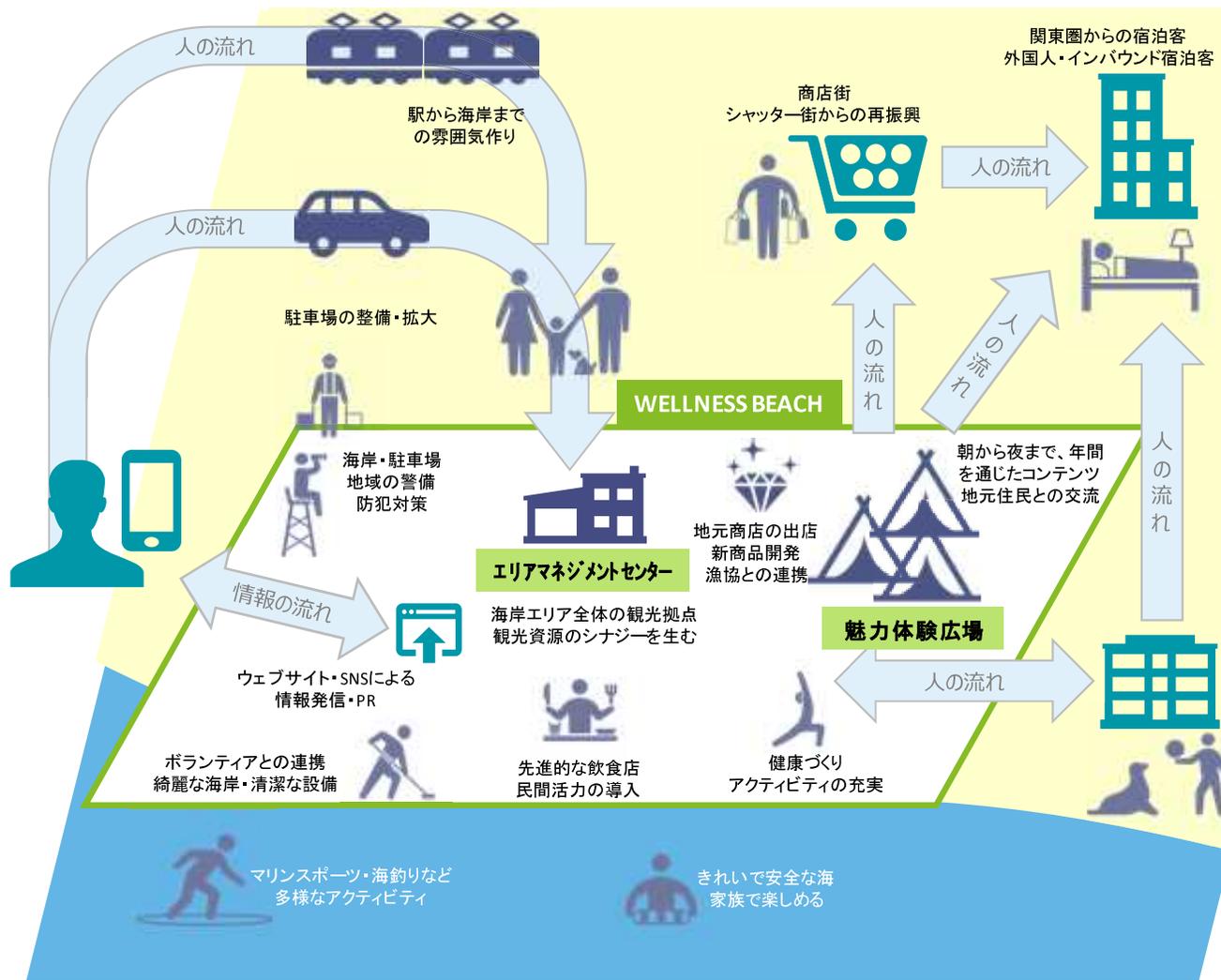


3. 目指すべき姿 (WELLNESS BEACHについて)

エリア活性化の拠点としてWELLNESS BEACHを整備し、当海岸が抱える課題を解決するとともに、「良質な日常」のイメージを醸成するシンボルとする

「WELLNESS BEACH」全体イメージ

ベネフィット(*1)



- 【地元住民】**
 ・近隣において斬新な飲食店や健康的なアクティビティを体験できる
 ・海岸周辺を含めた活性化・安全性の向上が期待できる
- 【地元商店・サーフショップ】**
 ・WELLNESS BEACHへの出店による増収が期待できる
 ・WELLNESS BEACHを目的とした観光客の流入による新規顧客の獲得が期待できる
- 【地元宿泊施設】**
 ・WELLNESS BEACHを目的とした観光客の流入による新規顧客の獲得が期待できる
- 【地元観光関連施設】**
 ・観光客の相乗的な誘引効果が期待できる
- 【WELLNESS BEACH出店業者】**
 ・新たな出店・イベント開催スペースとして事業拡大が期待できる
- 【本市】**
 ・本市及び当海岸周辺エリアのブランドイメージ向上が期待できる

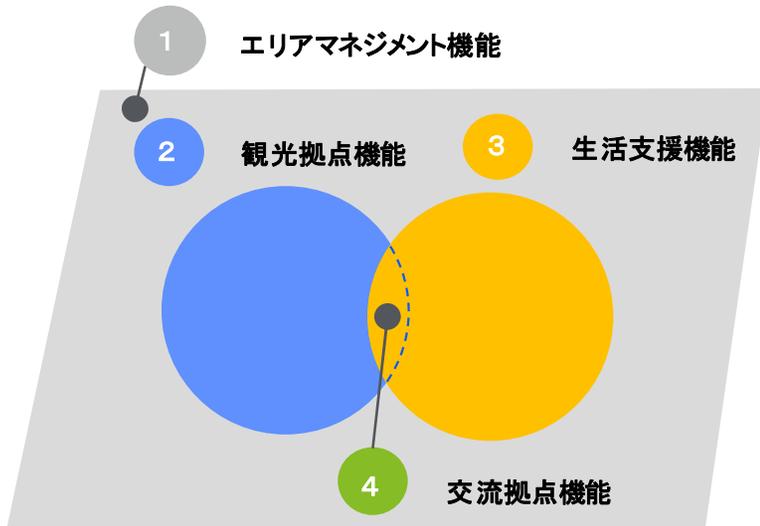
*1: 関係者が教授することのできる価値

3. 目指すべき姿(拠点に求められる機能について)

拠点に求められる機能を踏まえ、それらを提供するための仕組みを整備していく

整備すべき拠点の機能

拠点に求められる4つの機能



- ① **エリアマネジメント機能**
エリアの活性化に向けて、統一的な方向性を示し、プロジェクトマネジメントを担う。また、他施策との連携を積極的に図り、鴨川市全体の活性化につなげていく機能
- ② **観光拠点機能**
鴨川市外部から訪問する人に対するワンストップ窓口となり必要な情報を提供する。また、待合や地域産品販売などの機能も併せ持つ
- ③ **生活支援機能**
鴨川市内の方々の生活を支える機能。行政機能や防災機能を持たせ、市民が日常的に活用する場とする
- ④ **交流拠点機能**
訪問客と地域の魅力の交流を促す機能。人が集う場所やコンテンツを提供する

求められる機能を実現する仕組み案(*1)

エリアマネジメントセンター

- エリア活性化の拠点施設
- 観光客も地域の方も訪れたい機能を持たせる

- **観光案内**
観光客に対し、観光情報やイベント情報をワンストップで提供する外国人ヘルプデスクを設置する
- **待合・休憩スペース**
観光客が気軽に立ち寄り待合・休憩できるスペースを設ける
- **エリア活性化事務局**
エリア活性化に関する各事務局が横断的に集うスペースを整備する
- **子育てひろば機能**
子育て中の方が集い、情報交換できるスペースを設ける
- **情報発信施設**
コミュニティFMラジオ局等の設置や、防災放送設備等を整備する
- **移住促進**
観光客が鴨川への移住について気軽に相談できる施設を整備する

魅力体験広場

- 海岸を活用したコンテンツ提供やイベント開催を担う
 - 観光客と地域の魅力が交わるために機能を持たせる
- **アクティビティ受付**
海岸を活用したアクティビティ等の企画・提供や、自転車等機材の貸し出しを行う
 - **地域産品販売**
鴨川周辺の食や工芸品等を気軽に楽しめる場を提供する
 - **イベント開催**
観光客と地域の人々双方が楽しめるイベントを企画・提供する

● 5-1. モノに関する資源の獲得・創出

鴨川市の強みであり、産業振興への波及が期待できる「ヘルスケア」を軸に、他の観光地との差別化を図る

差別化を図る特徴的な価値提供を検討する

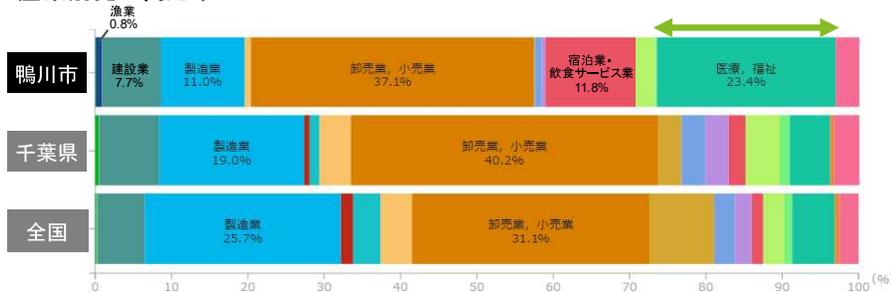
差別化検討の視点

- 鴨川市の強みを活用でき、市場として魅力的でターゲットに訴求できる「ヘルスケア」を差別化の軸に定める。

【鴨川市の強みを活かすことができること】

- 産業構造から鴨川市は宿泊・飲食といった観光関連サービスのほかに、医療福祉の占める割合が大きい
- 鴨川版CCRC等、医療福祉を軸としたまちづくりを進めている

産業別売上高比率



出所：総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」再編加工（RESAS）

【注力することで得られる価値が大きいこと】

- 医療福祉ヘルスケア市場は急激に拡大しており、市場から得られるベネフィットが大きい



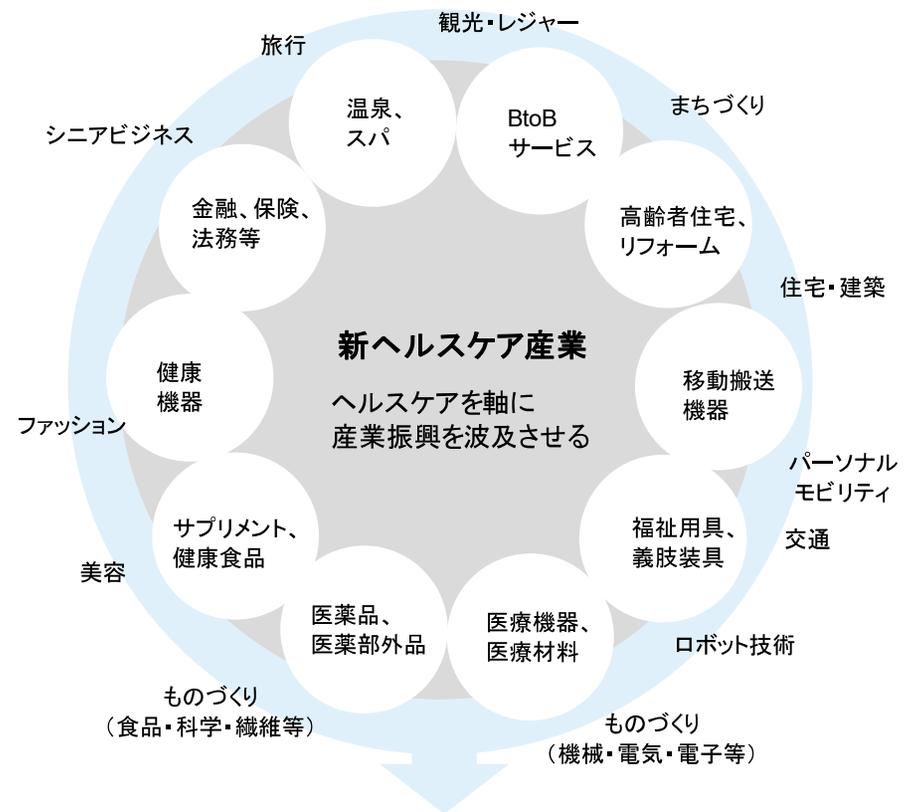
出所：日本再興計画

【ターゲットに訴求できること】

- メインターゲットとするアクティブシニア層はヘルスケアに関心が高い。内閣府による高齢者の日常生活に関する意識調査では、不安に感じる点として「自分や配偶者の健康や病気のこと」という回答が過去四回の調査で常に1位となっている

ヘルスケアによる産業の広がり

- ヘルスケアは多様な産業と連携することができる（新ヘルスケア産業）
- 医療福祉周辺産業の振興は、鴨川において、産業振興や、新たな雇用創出の機会となる。



ヘルスケアによる産業振興、雇用の創出

出所：中部経済産業局資料をもとに鴨川市にて作成

多様な産業を巻き込み、ヘルスケアの三要素を満たすことで観光振興を図ることが求められる

観光におけるヘルスケアの三要素

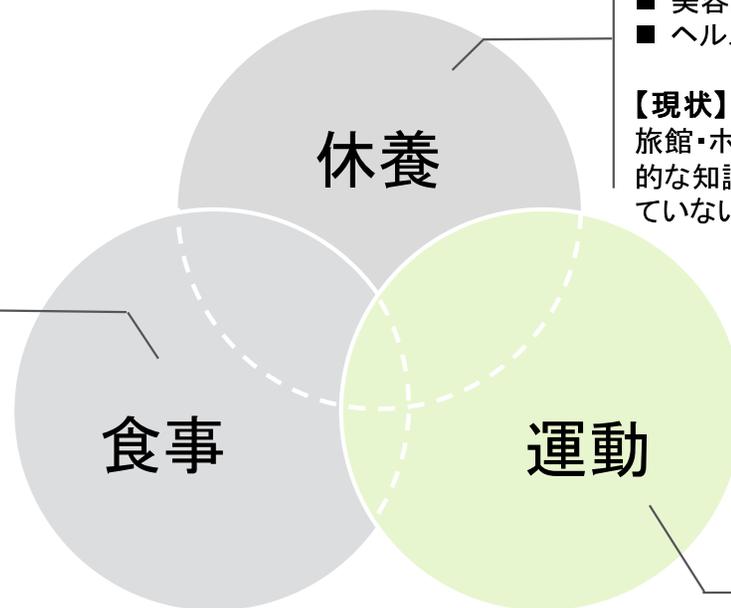
- 観光において、ヘルスケアとしての提供価値を高めるためには休養・食事・運動の三要素をそろえることが求められる。
- 休養・食事については、専門家と連携した商品開発・サービス開発が求められる。
- 運動については一つの事業者のみで整備することが難しいことから、整備主体の不在といった課題が残っている。

【事例】

- アンチエイジングのメニュー開発
- 地域産品を活用した健康によい土産物の開発

【現状】

飲食店・宿泊施設等が主体となるが、ヘルスケアについて専門的な知識は有しておらず、商品開発・サービス開発に至っていない。



【事例】

- 健康チェックの受けることのできる宿
- 美容に関するアメニティが充実した宿
- ヘルスケア商品のトライアルができる宿

【現状】

旅館・ホテル等が主体となるが、ヘルスケアについて専門的な知識は有しておらず、商品開発・サービス開発に至っていない。

【事例】

- 観光客が気軽に運動を楽しめるプログラム
- その土地の特徴を生かした運動プログラム
- 運動のために必要な物品のレンタル

【現状】

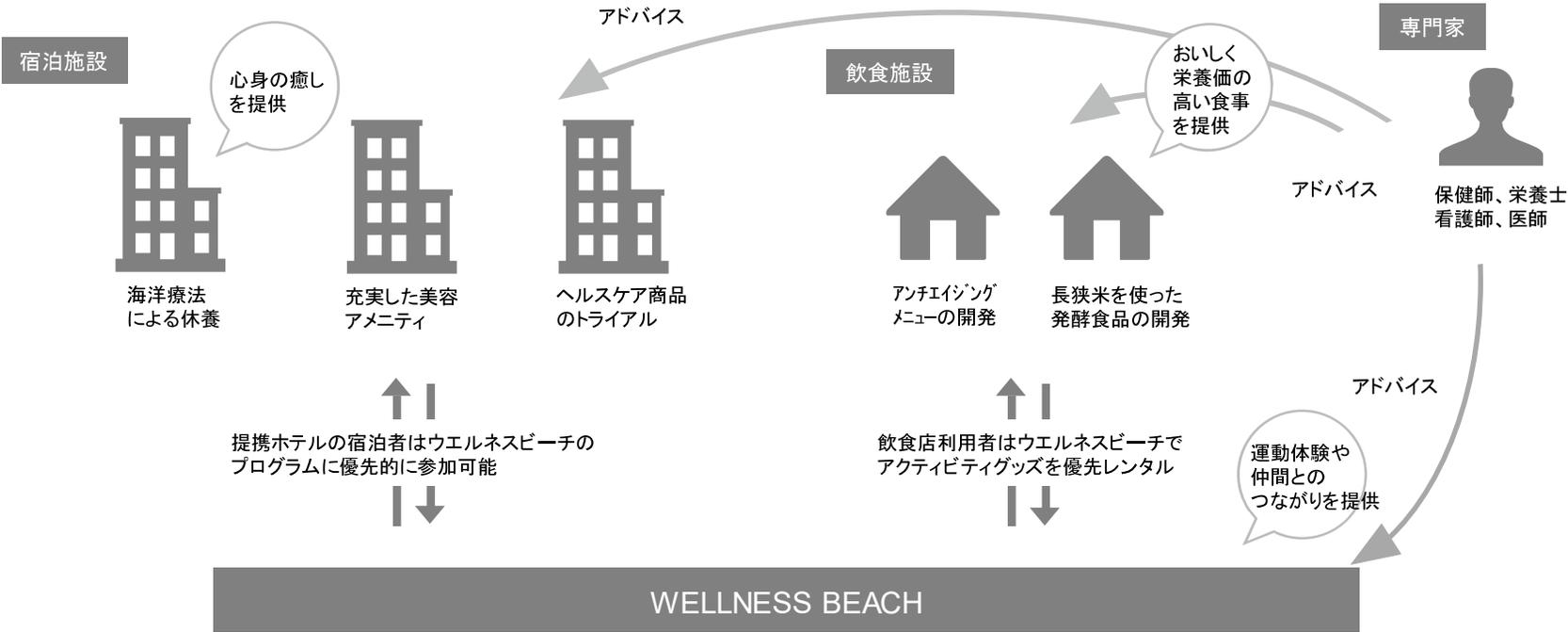
整備の主体が不在であり、観光客が気軽に運動を楽しめる環境になっていない

● 5-1. モノに関する資源の獲得・創出

観光客が気軽に「運動」を楽しめる場を作り出し、まち全体として「休養・食事・運動」を楽しみ、良質な日常を体験できるウエルネスリゾートを実現する

差別化を図る特徴的な価値提供を検討する(ヘルスケアを差別化要因としたウエルネスリゾート構想)

- まち全体に「休養・食事・運動」といったヘルスケアの要素を充実させ、良質な日常を体験できるウエルネスリゾートを実現する
- 宿泊施設は良質な心身の休養を、飲食施設はおいしく栄養価の高い食事を、ウエルネスビーチは爽快な運動体験やひとのつながりを提供する



自然を活用した気軽に体験できる運動プログラムを提供し、ヘルスケア観光における「運動」要素を満たすとともに、ひとのつながりを生み出す

- フラダンス
- ビーチヨガ
- ビーチピラティス
- ビーチ座禅
- 初心者サーフィン教室
- 中級者サーフィン教室
- パドルダイエット
- ビーチサッカー
- ビーチバレー
- ビーチラン(日中・夜間)
- サイクリング
- トレッキング
- ヨガマットレンタル
- サーフボードレンタル
- 自転車レンタル

アクティビティをまとめたプログラムを配布

自然を感じながら運動をする屋外フィットネスに取り組む事例が増加しており、需要の拡大が見込まれる

差別化を図る特徴的な価値提供を検討する(屋外フィットネスの事例)

- 屋外フィットネスとは、室内ではなく、自然の中で風や空、大地を感じながらフィットネスを楽しむ新たなスタイルである
- 普段の生活の中で、自然と触れ合う機会が少ない都心の会社員等を中心に、屋外フィットネスの需要が拡大している

屋外フィットネスの概要

■ コンセプト

自然の中で太陽や風、大地を感じながら体を動かす時間を日常生活に取り入れることで、心身の健康を維持することを目指す

■ 内容

屋外フィットネスとは自然の中で安全で効果的なスポーツをすることを通して持続可能で健康的な生活を目指すという活動である。

具体的には大自然の中でのヨガを中心にランニング、トレッキング、ノルディックスキー等のプログラムへの日常的な参加を通して健康的な生活を目指すことが考えられる。

東京では東京ミッドタウンでのミッドパークヨガや芝公園での芝公園ヨガスクールなどが昼夜を通して行われ地方自治体等から注目が集まっている。



ミッドパークヨガ
写真出所: Tokyo Midtown HP
<http://www.tokyomidtown.com/jp/event/feature2015/cpeinthepark/yoga.html>

■ 特徴

- ・賑わいや雇用の創出、予防医療の実現などに有効
- ・低コストでの事業運営が可能
- ・インターネットを活用した集客手法(SNSなどを活用した口コミを中心)
- ・ヨガの効果的な活用(ターゲットを女性、低コストなプログラム運営)
- ・スポーツ好き以外にアウトドア好きなど幅広い層への参加を促すことが可能

取り組み事例

■ 宮城県宮崎市SURF CITY



【サービス内容】

SURFCITYでは宮崎の豊かな自然の中で気軽に屋外フィットネスを楽しむことができる。例えば浜辺でのヨガや海岸線でのランニング等、多種多様なプログラムが利用者に提供されている。

また、会員制度やビジター制度も充実しており、プログラム全てを楽しむことができるレギュラー会員制度や、観光客向けのビジター制度等があり利用者の多様なニーズにも対応している。

【特徴的な取組み】

- 遠浅ビーチを活用したサーフィンスクール
 - ・大人向けのサーフィンスクール
 - ・子ども向けの放課後サーフィンスクール
- 大正時代の民家を活用したヨガスクール
 - ・約20種類もの多様なヨガプログラム
- 自然を利用した運動プログラム
 - ・海岸線約10kmのランニングコース
 - ・森林ウォーキングコース
 - ・溪谷トレイルコース



写真: surf city HP
<http://surfcity-miyazaki.jp/#section3>